

令和4年度

福井中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○生徒が「主体的に考える」発問の工夫をし、学習の成果を的確に捉え「指導と評価の一体化」を実現させる

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 宮田 和代	委員	校長:市瀬 佐代	教 頭:福多 博史
		事務室長:土橋 友美	1年主任:山川 徹也
		2年主任:米田 舞	3年主任:山本 博子

校長

市瀬 佐代

【小中連携または中高連携における共通の取組】

課題解決のためのタブレットの効果的な活用法の情報交換と、振り返りの仕方についての共通理解を図る。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や校内研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習環境のなか、前向きに学習に取り組む生徒が多く、与えられた課題をまじめにこなそうとする。 ●授業への集中力が十分でなかったり作業の取りかかりに時間がかかったりする。基礎学力の定着に差が見られ、家庭学習時間がやや不足している。	①学習した基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることができる。 ②家庭学習の時間や内容を充実させることによって、基礎基本の定着を図ることができる。	①小規模校の特性を生かし、複数教員による個に応じたきめ細かい指導に努める。 ②自主勉強ノートの使い方等を指導し、優秀作品を表彰するとともに、掲示して紹介する。	小中連携した「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の質の向上を図る。	①主に数学・英語の授業において、複数教員による指導を実施し、個に応じた対応をすることができた。 ②主体的に家庭学習に取り組めるように「家庭学習の手引き」を作成した。自主勉強ノートの優秀作品を表彰するとともに、掲示することで手本を示した。	複数教員による指導をより効果的に実施するために、教員間の事前の打ち合わせや、教員の役割分担を徹底する必要がある。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や集会などで、自分の思ったことや感じたことなどを文章で表現し、伝えることが比較的抵抗なくできている。 ●目的に応じて情報を集めること、考えや思いを筋道を立てて説明したり既習事項を活用して考えをまとめたりすることに課題がある。	①自分の思いや考えを、理由や根拠を示して発表することができる。 ②読書・新聞・タブレット等を通して、世の中の出来事に関心を持ち、表現の仕方や工夫を自分の表現に生かすことができる。	①すべての教科で、言語活動を意識した授業を工夫する。 ②課題解決のためのタブレットの効果的な活用を工夫し、研究授業やオープンスクール等で授業力を高める。	引き続き、すべての教科で、課題解決のためのタブレットの効果的な活用を行う。	①各教科において、グループ活動や全体で自分の考えを説明する等の言語活動を意識して取り入れることができた。 ②大学連携の研究授業やオープンスクール等で授業参観することで、各教員が、タブレットをどの場面で使うことが効果的かを意識するようになった。	今年度、大学連携で研究授業前に全教職員で行った授業づくり研修会が、タブレットの活用や授業力向上に効果があった。次年度も、継続していきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直であり、与えられた課題に対して、一生懸命取り組むことができる。また、宿題等の提出率もよい。 ●自ら課題を見つけ、疑問に思ったことについて追究しようとする意欲が、やや乏しい。	①学習課題を自ら設定し、主体的に活動に取り組むことができる。 ②振り返りを自分の言葉で書いたり発表したりすることができる。	①生徒が主体的に行動できるような体験活動などの機会を多く取り入れる。 ②単元ごとの振り返りの時間の確保と、タブレットに記録を残すことにより、学習への主体性を高める。	引き続き、すべての教科で、単元ごとの振り返りをタブレットで行い、その記録を蓄積する。	①コロナ禍でも、状況に合わせて生徒が主体的に体験できる行事、地域の特産を生かした総合学習、各種出前授業等を実施することができた。 ②教科の特性を生かしながら「振り返り」を実施することができ、生徒理解や授業改善につながった。	各教科の「振り返り」の実施を、さらに生徒自身が良さを実感できる「振り返り」をするために、内容検討や実施方法の工夫が必要である。

令和4年度 学力向上ロードマップ

